

## 実践研究会を開催!

令和2年2月22日(土)第11回目の実践研究会を北方西小学校をお借りして行うことができました。テーマは「**道徳教育を更に充実させるために!**」です。発表者は、本巣市を代表して弾正小学校・大野琴美教頭、瑞穂市を代表して穂積小学校・鈴木伸一教諭です。新型コロナウイルス流行の中でしたが、開催を決めました。参加者13名と少なかったのは惜しまれますが、内容の濃い研究会が出来ました。

10時、**大塚康正会計**(北方南小)の真摯なお人柄を感じさせる進行で、定刻通り始まりました。

**森山政紀会長**の挨拶です。まず、本会に貢献され今春退職を迎えられる**松野康司北方南小校長先生**のご紹介・花束贈呈・ご挨拶がありました。

「道徳科学研究センター歴史研究室教授の高橋史朗先生の寄稿文を紹介します。『ごんぎつね』の授業で『ゴン、お前だったのか』の兵十の気持ちを解説は出来ても、兵十の気持ちになって言える子がないことを指摘されました。論述の深い理解は皆様にお任せするとして、読みにおける感動体験の重要性を感じさせてくれます。そこで、苦しい体験の中から生き方の本物を捉えた人物として感動したことを紹介します。東日本大震災に直面、卒業生答辞を読んだ宮城県立気仙沼市立階上(はしかみ)中学校・梶原裕太さんの全文を読ませてもらいます。」  
続いては、参加者全員の自己紹介で、和やかに進められました。



### 令和元年度 実践研究会

## 児童の道徳性を養うための学校や家庭、地域の役割

発表者: 本巣市立弾正小学校 大野 琴美 教頭

弾正小学校の教頭として道徳教育推進連携の実務を担う立場から、実践内容を紹介していただきました。

「校長先生の指導方針を受けて、PTA活動方針『子どもの幸せを願い、楽しい家庭 明るい地域をつくる』取組です。

まず、本部実行委員会からは、6月と11月を強化月間とする『あいさつ運動』、家庭学習をすすめる中『親子読書』の展開です。『あいさつ運動』は、メール返信による双方向での価値付けが効果的でした。

次に、学級委員会からの取組です。家庭教育学級『茶話カフェ』では、子育ての体験を気楽に話し合える場としての有用性を紹介します。これは、家族で道徳性を養うための核になる取組です。

更に、安心・安全委員会からは『付き添い登校』『芝生等環境整備』の取組です。親子共同作業で勤労の精神・奉仕の心を養うのです。

地域の方にご協力を求めることは、児童に感謝の気持ちを育てることに繋がります。『資源回収』『芝生整備』に地域の方々や中学生ボランティアが積極的に関わってくださるその姿から学びます」

大野教頭先生は、学校と家庭、地域社会を結びつける取組に道徳的な価値を明確にもたせ、様々な思いを汲み取る柔軟性と方向付けにより、温かくも強い指導力を発揮されていることを感じました。



# 多面的・多角的な見方考え方を生み出す道徳科の授業の工夫

発表者：瑞穂市立穂積小学校 鈴木 伸一 教諭

鈴木先生は、現行「道徳科」を象徴する「考え、議論する授業」をめざして着実な取組をされていることが伝わる発表でした。「今の子どもたちに『道徳的な判断力』をより育てていきたいとの思いで、立ち止まる場の設定と多面的・多角的な見方や考え方が出来る授業を求めることにしました。



豊かな感想が持てる・語れるというのは、よりよくかつ思慮深く生活することに繋がると考えられます。そこで『感想発表の語彙一覧』『感想発表のポイント（4項目）』を学級に位置付け、授業で確かめ合っています。

ありのままの自分を見つめるための発問として、内容項目に関わる本来の子どもの思いが出てくる場面や内容項目の価値観がにじみ出てくる場面で工夫しています。『～した（と言っている）主人公をどう思いますか』岐阜県の道徳で使われている発問は、価値観を引き出す効果があります。5年『友の肖像画』を例にしますと…『章太君と別れる際わざと明るく声をかけた和也君のことをあなたは思うか』です。落ち込んだ友人と同じ気持ちになる自分、何とかして励ましたい自分が出されました。対等性がなければ『友情・信頼』は成立しないとの思いから、その気づきに至る友情観にこだわっています。

考え、議論するための指導過程は『資料提示→感想発表→はじめの議論→深めの議論→まとめ・書く』と単純化しました。3年『まどガラスとさかな』を例にしますと…はじめの議論では『千一郎と山田のお姉さんの違いは何ですか』、深めの議論では『千一郎のどんな気持ちか、割ったまどガラスを3度も見に行かせたと思いますか』です。『おじいさんに謝り、ボールを返してもらった千一郎は、これから

明るく生活できるでしょうか』と問い返して、深めました。（略）」



参加してくださった先生方からは、貴重なご質問やご感想をたくさん出していただき活発な会になりました。誠に有難うございました。

（会場風景） ※写真撮影は宮川和文監査（北方小）による

林 明夫顧問から指導助言をいただきました。

「お二人の先生方は道徳教育の素晴らしい実践者であると感じさせてくれた発表でした。弾正小・大野先生の発表では、子どもたちの幸せのために学校・家庭・地域で協力し合っていく方向性への確かな指導力が伺えました。穂積小・鈴木先生の発表では、子どもたちと道徳の授業を真剣に取り組み、一定の成果をあげている様子が良く伝わってきました。価値の捉え方としては、『正直・誠実』では『良心に従って精一杯生きる』ことを深めたいものです。千一郎が遠回りして現場を見に行った気持ちの中には正しく生きたいと変わらず持ち続けている千一郎の良さがあることを見つけてあげたいです。『信頼・友情』では、友を信じ続けることを深めたいものです。どんなことがあっても友を疑わないという確かさを共有したいのです。お二人の先生が学校現場でこれからも率先垂範してくださることを期待しております」



神谷 肇副会長より結びの挨拶がありました。



「11回続いてきた実践研究会へのご協力に感謝すると共に、本日の発表者・参加者の皆様へお礼申し上げます。今は新型コロナウイルスで大変ですが、3つの心遣い『感謝、思いやり、自立』を大切にしながら、元気に生きて行きましょう」と締めくくられました。

閉会後は、お寿司の昼食会で思い出話に花が咲きました。

関係各位のご支援・ご尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。